

鳥獣管理士資格認定試験 過去問題（一部抜粋）
専門問題（準1級新規、2級新規・昇級受験者用）

イノシシ、鳥類、サル、シカ、クマ類、小型哺乳類の6コースの中から3コースを選んで解答しなさい。

◆イノシシコース

① 我が国のイノシシの分布について、正しいものを選びなさい。

- 1) 本州、四国、九州、対馬、奄美諸島、沖縄諸島に分布する。
- 2) 北海道、本州、四国、九州、対馬、屋久島に分布する。
- 3) 北海道、本州、四国、九州の他、屋久島に分布する。
- 4) 本州、四国、九州に分布する。

② イノシシの水稲や畑作物被害場所を調べてみると、一般的に林縁からの距離が近い場所や、周囲に がある農地、人家周辺の農地に被害が集中する傾向にあることが分かる。

- 1) 河川
- 2) 森林
- 3) 道路
- 4) 耕作放棄地
- 5) 果樹園

◆鳥類コース

① 鳥類の生態について、誤りのあるものを選びなさい。

- 1) キジバトは全国の平地や山地に棲む。食性は主に米穀・雑穀を食べるが樹上で木の実は食べない。

- 2) カワウは河川、湖、沼、海などに棲む。主にアユやマスなどの小魚を捕食する。
- 3) 有害鳥獣捕獲で捕獲される数はカモよりカラスの方が多い。
- 4) カラスの食性は季節によって変化する。

② 水稲の直播、田植え、登熟期の鳥類被害は主に によるものである。

- 1) カラス 2) カルガモ 3) ゴイサギ 4) マガモ 5) ヒヨドリ

◆サルコース

① ニホンザルの個体数管理について、適切なものを選びなさい。

- 1) 捕獲に頼り、他の防除法を怠ると、加害ザルを作り出しながら、捕獲をするという悪循環に陥る。
- 2) 農作物を荒らす害獣として認定されると、個体群保全や動物愛護に優先してサルを捕獲することができる。
- 3) 被害を完全に防止するためには、捕獲によって加害するサルの群れを消失させることが理想的である。
- 4) 技術の進歩によって、今日では銃器やわなによって、ニホンザルの群れ全体を容易に捕獲することができる。

② ニホンザルは、体サイズが比較的小さく、木登りができるなど運動能力も高く、三次元的な空間利用が可能である。また、野生動物の中でも、学習能力が高いことが知られている。これらの生態的特性から、農地や集落への侵入を防止する防護施設は が主体となり、大きなコストを要する。

- 1) 網 2) 電気柵 3) 恒久柵 4) 防護柵 5) 囲い柵

◆シカコース

① シカによる被害対策について、不適切なものを選びなさい。

- 1) トンネル被覆や黒寒冷紗、緑ネット等を用いて、ほ場内の農作物を見えにくくする。
- 2) 捕獲したシカ肉を有効活用するため、狩猟免許を持ったハンターが食肉を衛生的に加工し、地域イベント等で販売する。
- 3) 市町村の範囲を越えた広域で実施できる捕獲体制を構築し、多人数で有害鳥獣捕獲を実施して捕獲頭数を増加させる。
- 4) イネ刈り後の耕耘を遅らせて12月に実施し、冬期の餌資源となる緑草帯の出現を抑制する。

② はニホンジカの分布や生活を制限する主要な要因である。

- 1) 積雪 2) 降水量 3) 気温 4) 森林 5) 草原

◆クマ類コース

問2 ツキノワグマの食性について正しいものを選びなさい。

- 1) 完全な植物食で、イネ科、カヤツリグサ科の単子葉草本を主食とし、広葉草本、木本類、樹皮、枝先などを食べる。
- 2) 植物食（葉、小枝、茎、果実、種子、花、キノコ類など）を主とし、昆虫など動物質も食べる雑食性である。
- 3) 植物食（新葉、タケノコ、地下茎、根、ドングリなど）を主とし、カエル、サワガニや昆虫の幼虫など動物質も食べる雑食性である。
- 4) 植物食（新葉、果実、ドングリなど）を主として、サワガニ、アリ類、蜂蜜、針葉樹の樹液などを食べる雑食性である。

① ツキノワグマの個体数調査法として、DNA の塩基配列から個体識別し、個体数を推定する 法が開発されている。

- 1) マスキング 2) マーキング 3) カメラトラップ
4) ヘアートラップ 5) ボックストラップ

◆小型哺乳類コース

① ハクビシンの生態について、不適切なものを選びなさい。

- 1) 完全な夜行性で、木登りが得意である。平地から山地にかけて生息するが、特に里山的な環境を好む。
2) 1年に1回子供を産む。一度に産む子供の数は平均2～3頭である。
3) バランス感覚は優れており、木登りが得意である。足でものをつかむことができるため、電線の上を尾でバランスをとって渡ることができる。
4) 足跡は、指が長く、5本がハッキリと分かれているため、全体的に人の手形に似ている。

② 日本ではハクビシンと同じくらいの大きさのタヌキ、アライグマ、アナグマが生息しており、これらの動物による被害とハクビシンの被害形態が似ている。そこで、実際に効果的な被害防止対策に取り組む上でも被害を与えている動物を や目撃により特定することが重要である。

- 1) 足跡 2) 食い痕 3) 匂い 4) 糞 5) 歯型